

ⅨⅡ．外国語活動(1～4年) 外国語(5・6年) 教育指導計画

1. 外国語活動 外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。

2. 学年ごとの目標 は前学年と比較して追加された文言

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
1年	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や簡単な語句に慣れ親しむようにする。	自分のことについて、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝える力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
2年	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や簡単な語句などに慣れ親しむようにする。	自分のことや身の回りのことについて、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝える力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
3年	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違いに等に気付くとともに、外国語の音声や簡単な語句などに慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝える力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
4年	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違いに等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
5年	外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを推測しながら読んだり、書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
6年	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3. 評価の観点

○外国語活動（1～4年）も外国語科（5・6年）も

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価。

4. 評価方法

診断的評価：学習前に、当該単元等で必要な知識等を習得しているか確認する。

形成的評価：学習の過程において、個々の児童や学習集団全体の理解度などを確認する。

総括的評価（記録に残す評価）：評価規準に則り、学習状況を総括し、観点別評価を行うために残す。※十分に指導を行った上で見取る。

自己評価・相互評価：学習活動の一環として、学習者が学習意欲の向上を図るもの。点数化して教師が行う評価に用いることなどは不適切。教師が学習者の自己調整等を確認するための材料としての活用が考えられる。

※総括的評価のみにならないように行う必要がある。

※「観点」を踏まえた記録に残す評価を、「観点」ごとに可能な限り複数回実施するなど、複数回記録に残した評価を総括して、最終的に単元の「観点」の評価とする。

5. 各学年の評価について

○5, 6年生は、他教科同様の評価→3観点による3段階（A・B・C）評価。それらを踏まえ、総括的に3段階（1・2・3）による評定。

【領域は5領域】

「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」

（以下、評価イメージ）

	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと	観点別評価 (学期・学年末)	評定
知識・技能	→					A	2
思考・判断・ 表現	→					B	
主体的に学 習に取り組 む態度	→					B	

○1～4年生はこれまで同様記述による評価。

【領域は3領域】

「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」

6. 単元の流れ

単元の初めはインプットを多くし、無理なアウトプットをさせずに聞くことを大切にする。単元の中で様々なアクティビティを通して慣れ親しんだ言語を使って、単元の最後にはアウトプットする活動を行う。

7. 授業の流れ例

【外国語活動(1～4年)】

初め 【あいさつ】 【帯活動や歌などで導入】

中 【めあての確認】

子どもに身に付けさせたい力を考えて、担任がめあてを確認する。（日本語で）

【言語活動】

目標に合った目的、場面、状況を作り、言語活動を行う。

終わり 【めあての振り返り】

担任が日本語でめあてを振り返らせる。ワークシートや振り返りシートを活用する。

【外国語(5・6年)】

○1 単元の中は、主に8時間単元となっていて、

- ① Starting Out 音に会う
- ② Your turn 会話に慣れる
- ③ Enjoy your communication コミュニケーションを楽しむ
- ④ Over the Horizon 世界を広げる

以上の流れで学習を進める。出てくる言葉は Picture Dictionary を使って学習したり復習したりする。

○Unit1～3 の後に Check your Step1、Unit4～6 の後に Check your Step2、Unit7,8 の後に Check your Step3 というように、複数単元を学習した後に、それまで培った力を使って学びを確かめる Check your Step があるので、そこでスピーチややり取りなどのまとめの活動を行う。

8. AET について

- ・ 2校に1名派遣される。
- ・ AET に授業を任せるのではなく、あくまでも学級担任（もしくは専科教員）が授業を計画し、英語や文化の指導としてAETを活用して授業を行う。AETとデモンストレーションを行ったり、部分的にAETが主に指導を行ったりしていても、担任（専科教員）が直接、活動に指示を出すことができる。
- ・ AET は一人で授業を行うことはできない。保健安全の面からも、学級管理は責任をもって担任（専科教員）が行う。

9. 国際理解教室について

- ① 国際理解活動の柱「異なる文化とのふれあい」
いろいろな国の行事や習慣に触れ、日本とは異なる文化に触れ合うこと。
- ② 外国語活動・外国語との違い
 - ・ 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
 - ・ 学級担任とIUIのチームティーチングで行う。